

アウトドア誌上体感マガジン

PAPER LOGOS

2014.vol.03 www.logos.ne.jp TAKE FREE



西表の
島キャンプ

30th LOGOS
THANKS YEAR



Enjoy Outing!

What's PAPER LOGOS?

アウトドアブランドLOGOSは、アウトドアスタイル・プレゼンカタログ「Smart LOGOS」、WEBマガジン「月刊LOGOS」などの自社メディアを発行&更新しています。そんなオリジナルコンテンツを再構成し、さらに、本誌独自の特集を加えた<アウトドア誌上体感マガジン>がPAPER LOGOSです。

Contents

特集

西表の島キャンプ	002
----------------	-----

FES



FUJI ROCK FESTIVAL '14	026
GO OUT JAMBOREE 2014	034
JOIN ALIVE 2014	044
コラム「東北のフェスに初参戦してきました。」	052

TRIP



気仙沼とツリーハウス	056
雪降る郡上へ。	068
コラム「八丈島“最大の滝”を探せ！」	080

BBQ



タモリカップ2013	084
もぐもぐ&てくてく 女子会in高尾山	090
HOTなGOODサンド	096
ベランダの物語	100
コラム「Fielder's JAMはワイルド? まったり?」	104

from Smart LOGOS「プレミアムなカタログ」	108
インフォメーション	111

西表島の キャンピング

東京からその旅が始まった場合……。

まずは飛行機で新石垣空港を目指し、そのあとでフェリーに揺られると、ようやくその島に到着できます。八重山諸島のひとつ、西表島。

PAPER LOGOSとして3度目の西表島への旅は、

「アウトドア誌上体感マガジン」にふさわしいものとなりました。

島キャンプ。地元の人でもめつたに訪れないような秘密基地的な海岸沿いにて、ワイルドなキャンプをEnjoyしてきたのです。

参加メンバーは、おそらく日本最南端のロゴサーである中坂家の人々。

宇詩と眞彩と千彩の3兄妹もすっかり大きくなりました。

まずは、そんな中坂家の最新の日常から紹介します。

撮影：三浦大輔 (gori-lax E more)

取材・文：唐澤和也 取材日：2014年7月



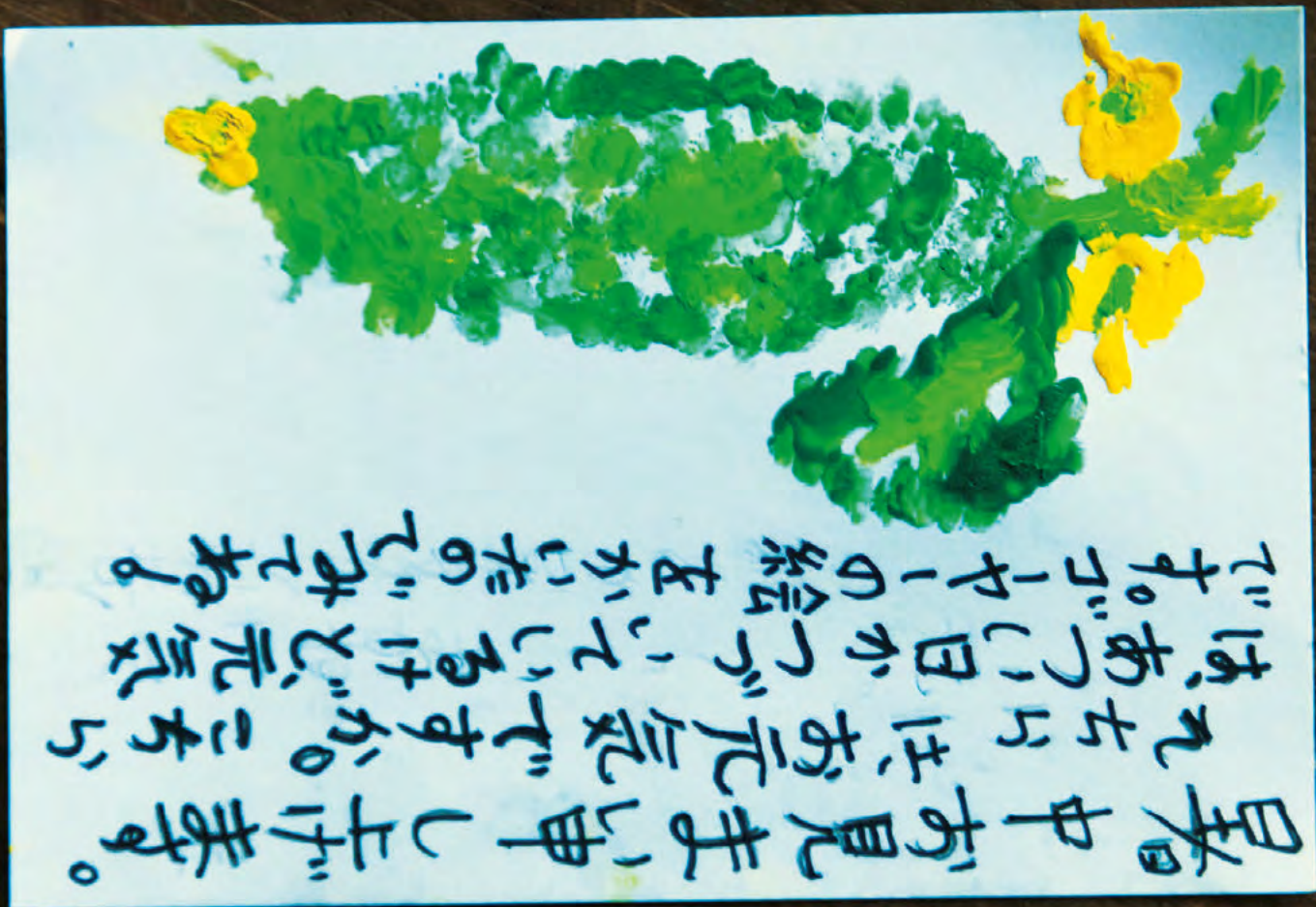


ぼくの絵



次女の千彩(ちーろ)も幼稚園へ通うように。背面に貼られているボディペインティングは、幼稚園でのお泊まり会の時のもの。3兄妹でもっともワイルドな彼女は「ちーろは年長さんになったら、チンチンが生えてくる!」と同級生に信じられているほどに男勝り





(写真左) 宇詩には絵の才能があるようだ。父・眞吾さんの実家へ送られるであろう暑中見舞いには、ビビッドなゴーヤの絵が描かれていた。西表島の子供たちは石垣島の高校へ進学するのがふつうだが、宇詩は「行かない。干立（ほしたて）がいい」とのこと

(写真右) 成長と言えば、長男の宇詩（うーた）と玉龍も負けていない。PAPER LOGOS2号では子供だった玉龍も大人な馬に。西表島の夏の日差しはなかなかのものだったが、中坂家から徒歩1分にあるマイヌ浜に“入浴”すればご覧のような抜群の笑顔に





前回の取材時には手袋を使いながらの作業だった養蜂も、素手でそのそれに進化していた。進化はそれだけではない。無添加の「西表島の天然はちみつ」は地元の人はもちろん、お土産としても人気となり、空港やホテル等でも販売されるようになったのだ

「蜂蜜って偉大！」
時間に追いかけられない仕事を得て
眞吾さんは笑った。



眞吾さんの友達である江袋正和さんは、パイナップルとマンゴーを育てている。写真のマンゴーが袋を掛けられているのは完熟して自然と実が落ちるのを待つため。お味のほうは……超絶美味！「西表島アナス農園」(<http://www.ananasfarm.com>)



滞在4日目の日曜日。

中坂家が住む千立から網取湾を目指しました。

いよいよ、この旅のメインイベント「島キャンプ」を体験するためです。

ガイドは、海人であり眞吾さんの友人でもあるよーしくん。

サバニと呼ばれるその船は、

帆に受ける風の力とオールをこぐ人の力で

海の上をすべるように進んでいったのです。



空海号の最後尾で舵をとるのが、
よーしくん。PAPER LOGOSの
旅では毎回お世話になっているが、
今回の「島キャンプ」もよーしく
んがいなければ実現しなかった。
そして、空海号の先頭で櫂をこぐ、
まーしゃくんにもお世話になりっ
ばなしだった



網取湾の海岸沿いにPAPER LOGOS臨時キャンプ場が完成! 「neos PANEL ドゥーブル XL」も建てて完璧!……と思いきや、編集部がみんなの箸を忘れるという失態を。その時、真吾さんは少しも慌てず自分のナタで参加メンバー分の箸を作ってくれました



島の男はみなそうなのか、それとも中坂家の教育方針のおかげなのか？ 宇詩がかまどを作って火を起こすまでの早さに感動させられる。編集部が手伝えたのは薪になるような木を集めることぐらいだったが、宇詩に教えてもらい火起こしのコツはマスター!







テントサイト設営後、よーしくん、まーしゃくん、眞吾さんの3人は漁へ。その2時間後、シャコガイやコショウダイなど、圧巻の大漁となる。さすが海人！ よーしくんの「アイランドサービス空海」(<http://painushima.jp/~kuukai/>)もチェックのほど

海人(うみんちゅ)恐るべし。
あっぱれな大漁。
BBQの前に刺身を食す。



これもひとつの命の循環なのか。波打ち際でさばいた魚の内蔵に稚魚たちが集まってきていた。千彩の指先を漂う小さな命がそれである。「海がきれいだからですよ。僕が小さい頃は干立でもふつうに見られた光景でした」と、よーしくんが教えてくれた







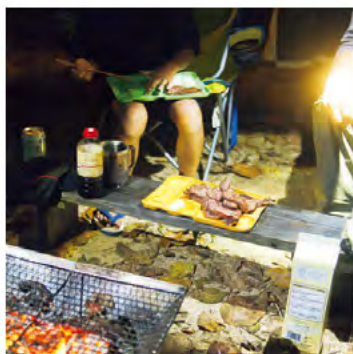
PYRAMID



GRILL



島キャンプの朝。
ピラミッドグリルで焼かれる
ガザミにいらまれる幸せ。



写真上は、テント泊した翌朝の朝食の風景。昨日の大漁のうち、残しておいた魚を葉っぱで覆って蒸し焼きにするの図。その下の写真は昨夜の晩餐の様子。パイン和牛と呼ばれるパナップルを食料とした西表島の和牛を、シークワサーを絞って食すの図



ガザミはワタリガニ科に属するカニであり、体長30cmほどの大型のものは高級品とされる。「焚火ピラミッドグリルEVO-L」にて焼かれている“高級品”は、昨夜のうちにマングローブに仕掛けていたワナにて捕らえたもの。宇詩が見事にGETした

